

## (2). 問題行動の事例から

非社会的な子供の代表的な例である引っ込みがちな子供について、その現れ方を考えてみたい。

引っ込みがちな子供の特徴は、思うことがうまく言えず、友だちと争うことを極端にさけ、集団でことをなすことに気おくれでしまいやすい。また、強い劣等感の持ち主で、人前に出ることにはひけ目を感じ、できるだけ目立たない行動をとろうとする。

### ① どのような原因が考えられるか

#### ア こじれた欲求不満

欲求不満からくる不適応状態であるが、愛情への欲求、承認の欲求など、適度に満たされないために、情緒的に緊張し、不適応をきたし、集団活動不参加という行動で、引っ込み状態に陥る。

#### イ 強い劣等感

自分自身への過度な関心と偏見が、緊張を出現させることがある。自分の容姿、健康、能力、対人関係などに強い関心を持ち、それが違和感、劣等感になってあらわれると、意欲や自信を失い、引っ込んでしまうことが多くなる。

#### ウ 誤った養育態度

親の養育態度から考えると、溺愛、過保護に育った子供は、保護のない立場におかれると、強い不安におそわれ、自分に都合のよい理屈をつくって正当化し、自分のおかれている立場から逃避し、引っ込みの状態になる。

### ②. 指導にあたって

#### ア あたたかい態度で接する

外側からみると、引っ込み、口をきかないなどは、一見、他人とのかわりをさけたり、拒否したりしているように思われるが、内面では、大きなかっ藤や不安を抱いている。対人関係の自信のなさから、必要以上に防衛的になったり、自分のからに閉じこもったりすることが多いので、あたたかい態度で接し、固い心のからを解くようにしたい。

#### イ 自信をもてるように